

相模原市青少年指導委員
広報誌！



第64号

相模原市青少年指導委員
連絡協議会

発行編集 広報部
発行責任者 市丸克己

はげいとう



特集：ポストコロナの時代に



オリンピック東京 2020 大会が 2021 年 7 月 23 日～2021 年 8 月 8 日にかけて開催され、相模原市においては 7 月 24 日（男子）・7 月 25 日（女子）の日程で自転車ロードレース競技のコースとして市内約 30km を世界のロードレーサーが駆け抜けました。新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中での開催でしたが、コース沿道での一般観戦も許可され、数少ないオリンピックの熱量を直接感じることのできる競技となりました。観戦者は皆マナーよく観戦し選手を応援していました。
コースサポーター 津久井地区 加藤

■はげいとう の名称について

1968 年青少年指導員制度が制定され、同年 9 月、『青少年の家』で宿泊研修が行われました。青少年の家の庭に咲いていた『ケイトウ』の花が夕映えに輝き美しかったことや、ゲーム研修での『土びん、茶びん、はげ茶びん』が楽しかったことを忘れずにとの思いから、広報誌を作成するにあたり、『はげいとう』と名付けられました。



よろしく
お願いします。

相模原市行政職員からのご挨拶



牛田主任

渡部総括副主幹

臼井主任

犬飼主事

子ども・若者支援課長 千葉恵子様

日頃より地域における青少年活動の推進にご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

子どもが安全・安心に過ごすことのできる「子どもの居場所づくりの取組」については、市民の皆さまからも多くの関心が寄せられており、その支援の輪は年々広がりつつあります。

今後も、子どもたちが将来への夢と希望を持ちながら健やかに成長し、活躍できる社会を実現するための環境づくりに努めてまいりますので、引き続き、地域における青少年の健全育成にお力添えくださいますよう、よろしくお願いいたします。

子ども・若者未来局長 榎本哲也様

平素より、地域の子どもや若者たちのために、ご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

本市では、青少年指導委員の皆様のご理解とご協力をいただきながら、子ども・子育て支援や福祉、教育、環境対策など、未来を担う子どもや若者たちが生まれ育った環境に左右されることなく、夢や希望を持って健やかに生き生きと成長し、将来にわたって幸せに暮らしていけるよう、環境の整備に取り組んでいます。

今後とも青少年指導委員の皆様をはじめ地域の皆様と連携し、SDGsの目指す「誰一人取り残さない」持続可能な社会の実現に向けて、子どもや若者たちがより一層輝き、活躍できるよう必要な支援に取り組んでまいります。



青少年学習センター所長 滝原哲也様

青少年指導委員の皆様には、ジュニア・リーダーの養成等、地域における青少年の健全育成についてご尽力を賜り、お礼申し上げます。

青少年学習センターでは、青少年に交流と活動の場を提供するため、コロナ禍においても魅力ある企画・情報の発信に努めて参りますので、今後ともご協力くださいますようお願いいたします。

この一年を振り返って

連協本部役員の皆さんにこの一年を振り返っての想いをいただきました。

お疲れ様でした

会長 市丸克己



皆さん元気に活動できましたか？

一昨年の年明けからコロナ禍に陥り、非常事態宣言やまん延防止対策等で約二年間の自粛活動を余儀なくされました。連協は思うような活動が出来ずに大変な一年になりました。

そんな状況下、皆さんの協力により新しい活動にも参画しました。各地区に於いても果敢に活動していただきありがとうございました。新任の皆さんには辛い思いをかけたね。次年度に力を発揮していただけることを期待します。

専門部員の皆さんには、部活動参画ありがとうございました。この経験を今後の活動に活かしてください。

地区長さんにはいろいろお世話になりました。雨の中、外での会議・・・市体育館ひさしの下で暗い中、また寒い中、机のない部屋での会議等。その甲斐あり全体役員会も密対策をとりながら無事開催することができました。

子どもたちの笑顔も見ることができたことは、関係者の方も含め、皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

困難な状況に於いても、今は青少年指導委員に何ができるのか？今は何が求められているのか？

行政との連絡はより密にして、皆さんと考えて話し合い一丸となって前に進んでいきましょう。

そして、子どもたちに素晴らしい体験と思い出を提供しましょう。コロナに負けない青少年指導委員！！頑張りましょう！！

ピンチはチャンスです

事業企画部長 伊藤時彦(大野南)



この2年間、コロナ、コロナでパワーのある青少指もさすが何にも活動ができないノーパワーです。

何とか活動をしたいが、会場も使用できないためまならず。そこで事務局が考え出したのが野外での会議です・・・昭和47年2月の長野・あさま山荘事件での、雪が舞う夜中の作戦会議を思い出しました(私は新米警察官だったので作戦会議には参加していませんでしたが・・・)。何が何でもやろうという青少指のパワーには驚かされました。事業企画部にもパワーはあります。部員みんなでいろいろ考え、「1人1点作品を作ろう」を計画しました。その結果、あっと驚くすばらしい作品がいっぱい出て来ました。折角の作品を活かしたいので、この後には作品展を考えています。

仲間を増やし楽しみながら！

研修部長 本郷永子(星が丘)



研修部のこの一年を振り返ってみます。新しいメンバーを加えたにもかかわらず、コロナ渦のなかで活動することができない状況下、コミュニケーションツールの利用も検討してみましたが実現に至らず、暗中模索を続けた1年でした。限られた時間の中、タイトなスケジュールではありますが、各ブロックが案を練り、策を尽くしブロック研修を行っており、参加活動できることの喜びを感じた一年でした。

私たちの日々行う研修が、各地区へ戻り子どもたちの笑顔とともに作品となっていく。その繰り返しの中で個々がスキルを上げていく。それが研修部の活動です。仲間を増やし楽しみながら活動できたことは私自身の励みにもなりました。

こんな時だからこそ！

広報部長 齊藤一城(大野中)



活動の証を創ろうともがいていた一年。対面の部活動もまならず、リモート会議に。それでも毎月部会を積み重ね、事業がない中で部員一同、記事になるネタをかき集め、なんとか広報誌ができあがりました。

また、今年は新たなチャレンジとして、青少年指導委員の活動の参考となるガイドブックの作成に取り組みました。新任者のみならず、多くの皆さんにも参考になるものになるよう、皆で意見を出し合いました。作成に於いて、自分たちの活動を振り返ってみたり、過去の資料を掘り返したりした結果、色々な発見や刺激を感じた一年でした。

今会議の場は「青空」でも・・・

事務局長 入江康典(上鶴間)



この原稿を書いている今日、国内の新型コロナ感染者は一日に十万人、延べ感染者数が人口の2.5%を超えました。この1年間、会議が公共施設で行えないことも度々あり、施設外の駐車場で開くことができました。

そのような状況下、各地区を代表する地区協議会長の皆さんはソーシャルディスタンスを守りつつも、屋外で人の声がギリギリ届く範囲に集まり、役員会は熱心に開かれました。本部役員ができる大切なコミュニケーションの場でした。

いつかはきっと来る、地域子どもたちと何の心配なく活動できるその日のために、そのためにじっくりと準備してきた1期2年間の取組みが意義のあるものだったと振り返られるように・・・そんな時間の使い方につとめました。

特集

ポストコロナの時代に

新型コロナウイルス感染症が世界にまん延して、2年近くがたちました。その間、3密の回避のために各地区での事業も思い通りにできずに、もどかしい思いをしてきました。

しかし、ポストコロナの時代を見据え、これからはコロナと共存しながらも、子どもたちのためにできることを模索していくことも大切になってきます。そこで、各地区の思いや工夫を特集し、知恵と工夫を共有していきたいと思ひます。

Aブロック：相原、橋本、小山、大沢

Bブロック：大野北、横山、中央、清新

Cブロック：田名、陽光台、上溝、
星が丘、光が丘

Dブロック：麻溝、相模台、新磯、相武台

Eブロック：上鶴間、東林、大野南、
大野中、大野台、大沼

Fブロック：津久井、城山、相模湖、藤野



相原地区 ★子どもたちの元気な声が聞きたい！

相原地区では、2022年1月末に小学生30人を予定した事業、「工作教室」の計画に参加してきました。

11月から始まった企画会議では、公民館の新型コロナウイルス感染症拡大予防対策ガイドラインに照らし、実施可能であるという判断のもと、計画を練ってきました。

内容は、どんぐりやくヌギなどの木の実や小枝を利用して、置物やキーホルダーなど思い思いのものを自由にする計画でした。

近隣の小学校に募集のチラシを配ったところ、募集人員を上回る希望者が集まりました。

しかし、1月になって感染者の急速な増加が始まり、実施が危ぶまれる状況となってきました。そこで、担当者が集まり協議した結果、今回は中止せざるを得ないという判断に至りました。

早くコロナが収束し、子どもたちの元気な声が聞けることを願っています。



橋本地区 ★作って遊んで、みんなで楽しむ体験会

昨年度は中止された「橋本子どもまつり」。前回までは子どもたちが実行委員でしたが、今年度は青少年部員が実行委員となり、会議や準備も密にならないよう、短時間で進めました。

参加者は完全予約制（定員 180 名）1 枠 30 分、30 名完全入れ替え制とし募集したところ、定員を超える申込みがありました。抽選を予定していましたが、久しぶりの行事でしたので、申込みのあった 205 名（当日参加者 197 名）全員参加としました。

内容は、工作、お化け屋敷、くじなど 8 ブースを回るスタンプラリーとし、少しでも多く体験してもらえるように、空いているブースに誘導しました。“ヤッター！” “キャー！” 久しぶりに聞く子どもたちの歓声、悲鳴に思わず実行委員からも笑顔がこぼれました。30 分ですべて回れる子ども、工作に夢中になって時間が過ぎてしまった子ども、とそれぞれでしたが、“全部回れたよ！” “もう一回やりたい！” とうれしそうな声、あふれる笑顔にそれぞれ楽しい時間を過ごしてくれたと思っています。



小山地区 ★メルヘンランド ～YouTube による連動型～

昨年 12 月に開催されたこどものためのこどものおまつり「メルヘンランド」。少ないながらも実行委員に参加してくれた子どもたち、コロナ禍で密にならずに開催するにはどうしたらよいか？ 模索した中でインターネットが子どもたちにも身近になっている昨今、「YouTube」という選択をすることになりました。

クイズ・工作・料理の 3 つのグループに分かれて、実行委員の子どもたちにとっても初めての試み。ただ単に YouTube を配信するというのではなく、その先に開催される「メルヘンランド」へ参加してもらおうが目的。

クイズは海賊王からのクイズを解いて宝箱の鍵を開ける。YouTube を見ていないと出来ない問題だが、見られない子どもたちにもクイズに参加してもらえるように問題用紙を見ながら当日参加も。工作は家でも手軽に出来るように廃材や身近にある物を使ったクリスマスツリーの飾り作り。当日にも同じ物が作れるように準備し、訪れた子どもたちに作ってもらいました。料理はクリスマスに楽しめるレシピを紹介。メルヘンなちらし寿司やクリスマスケーキ、とても美味しそうでした。料理は当日できないので残念でした。今後も YouTube と連動した形になるかはまだまだ手探り状態ですが、コロナ禍での開催第一歩となったのではないのでしょうか。



→→当日の様子



↑↑↑動画撮影の様子

大沢地区 ★さわっ子！将棋教室

講師に、日本将棋連盟公認将棋普及指導員の及川千秋氏を迎えて、本格的に将棋のマナーからルール、駒の動かし方をご指導いただきました。



1. 本将棋の際のマナー、駒の動かし方ルールの説明



2. 指導員による指導対局「詰将棋」「次の一手」で覚える



将棋をあまり知らない子ども、ルールを知ると、いつもやっているゲームのように、目を輝かせていました。藤井聡太くんのように、いつまでも上を目指し、前進する若い力を応援していきたいです。

なお、大沢公民館の活動が公式ホームページ、Twitter、公式 YouTube チャンネルからご覧になれます。是非、ご覧になって下さい。

3. 参加者同士の自由対局



4. 級位認定証授与式



大沢公民館 Twitter



相模原市立大沢公民館 | 大沢公民館の情報を発信中！ (sagamihara-kng.ed.jp)
相模原市立大沢公民館 (@oosawa_koumin) / Twitter
相模原市立大沢公民館 - YouTube

B block

大野北地区 ★新型コロナには負けられない ー新たな挑戦ー



新型コロナにより、従来の活動ができない中、大野北として「今できる事」を考えた結果が一昨年からの動画の配信でした。



クルーと参加者とともに

公民館が再び使用出来るようになり、公民館の利用制限の下で、例年 9 月に実施していた「こどもまつり」は、「ゆめっ子ひろば」として、子どもたち(クルー)の人数制限(結果として 8 名)、来場人数の制限、入場から退場までの一方通行方式、整理券とスタンプを使った人流の把握、...の工夫を取り入れ 12 月に実現。私たちも今まで経験したことのない事への挑戦でした。



青山学院の学生さんにもお手伝いいただき、子どもたちと一緒に考え作り上げた「ゆめっ子ひろば」、無事に終了。ありがとうございました。

今回の「ゆめっ子ひろば」開催は成功裏に終わった。いろいろな多くの反省事項は、今後の活動に活かせることを期待しています。

振り返ってみると、新型コロナ禍で、6月のゆめ教室①(ゴム動力ヘリコプターの作成)、12月のゆめ教室②(ぐるぐるイルミネーションの作成)、1月のゆめ教室③(お花の形の風車の作成)、3月予定のゆめ教室④(相模の大凧見学)、と計画した活動を、万全のコロナ対策を取りつつ実施に向かって進めてきた年であった。



活動が早く普通にできることを願っております。



横山地区

★よこやま Kids

スペシャルでクリスマス!

横山では 6 月に SDGs にもつながる保存食をテーマに野菜ジャムの料理教室を実施して以来、久しぶりの子ども向け事業を 12 月 5 日(日)に開催しました。

毎年 11 月頃に終日実施していた『子どもフェスティバル』の、クリスマスをテーマとした午後のみミニ版です。

昨年より公民館ホームページと紙媒体で『よこやま Kids 通信』として月 1 回、青少年部から工作や子ども料理教室のレシピ等を配信していることから、タイトルを『よこやま kids スペシャル』とし、大人のみの実行委員

会を立ち上げました。

感染対策に配慮しながら、事前申込制の 4 つの工作教室(★)と、フリーでも遊べるスト

ラックや輪投げの外遊びコーナーと大会議室での 3 種のミニゲームコーナー(★)をもうけ、本当に久しぶりに、たくさん子どもたちの笑顔に包まれることができました。



★スノードーム



★①キャンディネックレス



★食品サンプルのカップケーキ



受付で消毒・検温



★新聞紙の紙鉄砲など



★②キャンディツリー



☆ストップサンタさんゲーム



☆紙コップ釣りゲーム



☆紙コップスタンディング

中央地区

★模索の2年間 ～～ 波、次々と ～～

2年間を通じて、独自で直接子どもたちとふれあうような行事は行えませんでした。1年目は計画・試作まで準備しても中止という事もありましたが、試作会自体が有意義に行えました。

2年目は10月と12月に2回ブロック研修を実施できました。地区として、コロナ禍でも簡単にでき、楽しめるお店屋さんごっこ工作『縁日』を協力し合い提示することができました。束の間の貴重な委員同志のふれあい・共有の場となりました。

夏休みには毎年行っている「ふれあい科学教室～飛行リング～」をこどもセンターなどに材料を提供し、作り方の指導をしました。

また、冬休みには新しい試みとして、お家でも楽しく簡単に実験できる『紙の不思議』というプリントを配布しました。

3月には公民館の事業「中央地区っていいなフェア」の中で「こどものひろば」(バルーンアートなど)を担当します。

いなせなお祭りのハンテン



「縁日」でなく「縁日」ネ!



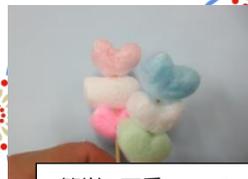
タコ焼&焼きそば



りんご飴♥



金魚すくいの金魚



簡単で可愛い! マシュマロ串

清新地区 ★コロナ禍でも触れ合いを

2021 年 12 月に公民館青少年部の事業を行うことができました。

今回は定員数を設け、事前予約のみという制限付きでの募集になり、子どもたちが集まってくれるのか本当に不安でしたが、定員割れすることなく予約枠が埋まりほっとしました。

クリスマス工作ではペットボトルにふわふわの毛糸を巻き付け飾りつけます。

工作時間に限りがあるので、星型は前もってジュニア・リーダーに作成してもらいました。

子どもたちは山盛りのデコレーションをし、まだ物足りない自宅に飾りを持って帰る子どももいました。

おもしろ実験はバルーンアート用の風船を膨らませてしぼり、用意した布で擦って静電気を発生させる遊びです。最初は布で擦っていましたが、子どもたちが自身で着てきた上着に擦り合わせた方が上手くスズランテープが浮くようで、最後の方は上着を使って静電気を上手に起こしていました。



おもしろ実験



クリスマス工作



クリスマス工作



クリスマス工作



おもしろ実験

田名地区 ★来年度こそ！

昨年度は、時期と開催内容を大幅に変更し“密”にならないよう こどもまつり「わくわくチャレンジ day」を開催。

今年度は、開催時期を大幅にずらし、2月に田名地区散策、3月に「わくわくチャレンジ day」を計画しましたが、いずれもやむを得ず中止となりました。人との交流が難しい昨今ではありますが、今後も交流の場を通じて子どもたちの心の豊かさを育てていきたいと考えています。来年度こそ！子どもたちの笑顔が見られますように。

☆田名地区散策

公民館 ～ ふれあい科学館（江成久兵衛像）▶

～ 江成久兵衛土手石柱 ～ 望地キャンプ場

～ 田名畑の会・畑を経て公民館に戻る、ぐるっと 1 万歩を予定していました。



～ 新堀用水路（旧烏山上水）

☆わくわくチャレンジ day（昨年の様子）

公民館にて、クイズ、紙飛行機飛ばし、輪投げ、玉入等を予定していました。



上溝地区 ★コロナ禍を通して思うこと

逆にコロナ禍でなければできないことができ、またコロナ禍だからこそ見えてきたものが見え、大変に有意義な 2 年間となりました。

今回のコロナウイルスの感染拡大で過去に体験したことのない状況に置かれると当初は全く何をしたいのか見当もつかず、先行きの不安と歯がゆさばかりが募り無気力な日々が続いていました。

行政からは何ら通達や指示もなく、役員が躍起になって「何か知恵を出してやって下さい」とか「一つでもいいのでやって下さい」と、言われても不安とやらされ感しかありませんでした。そうした中でも、このままでは子どもたちからも離れていってしまうことを懸念し、消毒や換気、人的距離の確保、人数制限や時間短縮など、コロナ対策の議論を入念に行なう中、サンタにふん装し園を訪問したり、コロナ撲滅のポスターを家で描いてもらったり、またダンボールで恐竜を作りペインティングしたりと、普段ではできないことができ、いつもとは違った子どもたちの明るい笑顔を見ることができました。

はずかしい話ですが、私たち上溝地区では 30 数年間にわたり、夏はキャンプ、秋はハイキング、そして冬はクリスマスとメインの活動に変化はなく、慣習的に一年を通して活動を続けてきました。

この事の善し悪しは別として、そうした活動を行なっていくためにはそれを裏付ける予算が必要ですが、決められた予算の中での活動には限りがあります。

平成から令和の時代になり子どもたちを取り巻く環境も大きく変化し、私たちに求められるものも全く変わってきています。予算内で活動していく努力は先人達が何十年も続けてきましたが、このまま旧態依然とした活動では残念ですが地域での活動は、いずれ想い出話しになっていくことでしょう。

先人達の努力を決して無にすることなく、ただ予算を消費するだけでなく、現実をしっかりと見つめ時代や価値観の変化に対応できる活動につなげて行くことが大切で、これからもきちんと子どもたちと向き合い活動していかなければなりません。もう一点は、コロナ感染拡大に伴い、活動に対する個々の意識に違いがある中で活動することの難しさを痛切に感じざるを得ませんでした。

『コロナが怖くてできない』のか『コロナに名を借りてやらない』のか、あるいは『どちらでもいい』のか『やり方を変えればやれる』のか、個々人のデリケートな真意を推し量るのは困難極まりなく、感染対策はしたものの、その責任と感染リスクに憂慮しながら、そして実行委員やスタッフ等関係者の気持ちの一つにできないままやらなければなりません。

感染者や問題が出れば結果オーライのやり方では、指導者そのものの資質が問われますが、私たちは、今まで以上に協力し合い知恵を出し合いやっていかなければならない、そんな難しい局面を迎えたのではないのでしょうか。それを『コロナ』が、私たちに教えてくれたのではないのでしょうか。



大変だったけどなんとか完成してよかった

星が丘地区 ★雨ニモマケズ、コロナニモマケズ

コロナ禍での活動は、3密を避けることが必要です。

そこで、私たちの地区では、地子連と協力して、屋外で実施でき子どもたちが密集しないで済む、オリエンテーリングを企画していました。これは、コロナ前にもジュニア・リーダー研修の一環として行ったものです。

しかし、実施方法を練っていた矢先に、再び緊急事態宣言が出てしまい計画は白紙に。

それにめげずに、横浜にある子ども科学館の見学を企画したところ、これも緊急事態宣言で中止になってしまいました。その後、感染が収まってきたので、再チャレンジしていたのですが、オミクロン株の流行で再中止に。(泣)

これからは、コロナと共存しながらの活動が続くと思いますが、試行錯誤しながら取り組んでいきたいと思っています。

※写真は、平成 27 年に実施したオリエンテーリングの様子



光が丘地区 ★「New ジュニア・リーダー」たちの活躍に期待

令和 3 年度も、昨年に続き「コロナウイルス」により活動が制限されましたが、後半に制限が緩和され、「ジュニア・リーダー研修会」を開催する事ができました。

今年度は、地区小学校 5,6 年生の研修生 32 名が参加し、第 1～7 次迄の 7 日間で開催しました。

第 1～4 次迄は、様々なゲームや運動で盛り上がり、第 5 次の「愛川ふれあいの村」の宿泊研修では、初日、村内の写真オリエンテーリングで研修生がポイントを探して一生懸命に山野を走っていたのが、とても印象的でした。

夕食のカレー作りでは研修生が、火おこし、調理担当に別れ、各々が仲間と協力して出来たカレーを美味しく頂きました。夜のキャンプファイヤーでは、コロナ禍を忘れて、ファイヤーの灯りの中での歌とゲームで大変盛り上がりました。

令和 4 年 1 月には、ジュニア・リーダーの修了式を無事に終え、研修生の一人一人が頼もしく感じられました。

コロナ禍は未だ収束せず、来年度も同じように出来るかが、心配ですが、今回、この環境で行事ができた事は、有意義な事と感じました。

最後にコロナ禍の厳しい環境の中で育った「New ジュニア・リーダー」たちの今後の活躍を期待すると共に、新型コロナウイルスが一刻も早く収束し、子どもたちの元気な笑顔が見られる日常に戻って欲しいと願っています。



陽光台地区 ★「理科実験教室」“化石の標本を作ろう”

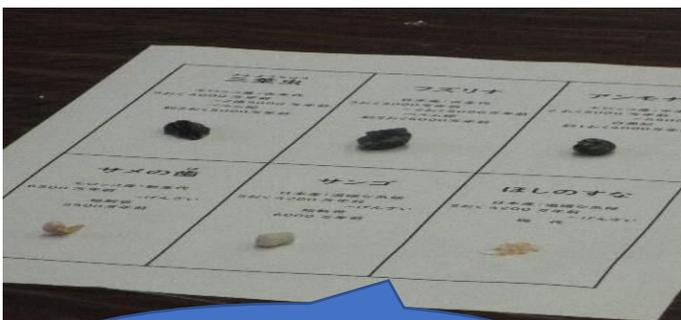
公民館青少年部主催の「理科実験教室」が二年振りに開催された。本事業は子どもたちに毎回好評を得ており、今回も募集初日に定員をオーバーする程の人気のある事業でもある。

今回も日本理科教育学会の門倉松雄先生のご指導の下で、テーマは「化石の標本を作ろう」が行われた。

冒頭に三葉虫やサメの歯等の本物の化石が展示されたコーナーで、子どもたちは実物を手に取り、初めて観る本物の化石に神妙な眼差しながらも興味津々に観察していた。

門倉先生より生命 46 億年地球と進化の解説が始まり、粘土で固められた化石の一部を画鋸により掘り出す作業を各自が体験した。掘削した資料を含め、古生代、中生代、新生代、現代における化石の標本を作成した。

コロナ禍で、皆で集まる機会が少ない現状の中で、友だちとともに貴重な体験と、標本を持つ子どもたちの喜びの笑顔がとても印象的であった。



見事に完成した化石の標本

本物の化石
を観察



化石はまだかな！
掘削中



block

麻溝地区 ★リトル ジュニア・リーダー研修会

コロナ禍でジュニア・リーダー養成研修会はどの様に実施できるか協議し、宿泊研修は行わない、麻っ子フェスタを中心として秋に集中して実施することになった。今年子ども会が減少し、ジュニア・リーダー養成研修生の募集のために、チラシを作成し各学校に配布した。

名称も、「ジュニア・リーダー研修会」から「リトル ジュニア・リーダー研修会」とし、新たなスタートとした。

研修は緊急事態宣言などの影響で2回に変更され実施した。第1回はアイスブレイキング、初めに「積み木自己紹介」、皆を知ってもらう自己紹介では好きな食べ物、趣味、最近嬉しかったことなどを交えて紹介した。絵しりとりを行い、皆なかよく交流ができた。

第2回はグループワークトレーニング「風が吹くと桶屋が儲かる2021」、「恥ずかしがりやのネズミ家」、ネズミは恥ずかしがり屋で注文ができないので打合せして希望の家を建てる様にプレゼンします。



相模台地区 ★やっぱり笑顔がいい!

昨年度に引き続きコロナ禍の影響で、例年の事業開催が難しくなりました。

指導員同士の会議もリモートで行ったり、色々としりこみ錯誤を重ねたりしながら3密を徹底し、手作り体験教室・絵付けアートを12月に開催しました。

人数制限やおしゃべり禁止等、約束事の多い体験教室となりましたが、マスクの下の楽しそうな笑顔は伝わってきました。これからもできる事を見つけながら子どもたちと一緒に楽しみたいと思います。

2022年は、3月の相模台公民館まつりに向けて青少指らしい企画を準備中です。



手作り体験教室・絵付けアート

新磯地区 ★自然と歴史のある新磯

コロナ禍以前は小学生対象の大人参加イベントが主でしたが、コロナ禍では、親子で一緒に参加できる内容に変更し、対象を幼稚園や保育園の子どもから小学生までの少人数でのイベントに変更しました。また、「新磯らしさ」「季節感のある」をテーマにしました。

次年度も、子どもの笑顔を見ることができるイベントを「新磯らしさ」「季節感のある」「親子で参加できる」のテーマで実施していきたいと考えています。

<2021 年 1 月>～こども展～
園児の塗り絵等を展示、冊子作りや SNS 公開をしました。



<2021 年 7 月>
～七夕かざりをつくろう～
七夕飾りを作りました。



<2021 年 7 月>
～パラリンピックの競技を体験してみよう～
ブラインドサッカー等体験



<2021 年 11 月>
～子ども会
芋堀り～



<2021 年 12 月>
～クリスマスパーティー～
クリスマス会しました。



<2021 年 12 月>
～親子で凧作り教室～
凧を作り、凧あげしました。



相武台地区 ★次年度へ繋げていく「こどもまつり」

今期 2 年は、コロナ対策により従来の活動は自粛の中で、試行錯誤して地域の子もたちに寄り添った活動を検討してきました。特に、「こどもまつり」は、不特定多数の来館者を受け入れるのは困難であり、飲食関係も禁止となると、昼をまたいでの一日の事業はできないと判断するしかありませんでした。

3 時間で最大限収容可能人数が楽しんでもらえる、青少年部主体の事業を考え実行することができました。

12 月 5 日（日）9 時～12 時を公民館全館使用して実施しました。定員 60 名は事前申し込みにすることで参加者が特定でき、1 班 12 名ずつに事前に分けることができました。

5 つのコーナー、①ラダーゲッター、②白い粉なかに・キムス、③キラキラ輪投げ、④ヒンメリ、⑤つむつむ・びりびり をそれぞれ 1 コーナー 30 分で周り、5 か所を順番に体験して行くことで、密にならずに、参加者に楽しんでもらえました。

次年度に繋げていける内容だったと確信できました。



ラダーゲッター



つむつむ



キムス

上鶴間地区 ★いろいろな発想でこれからも

令和 2 年度は子どもたちを集めての事業ができませんでしたが、かわりに動画配信を二つ行いました

一つは門松作り、もう一つはお菓子作りを配信しました。双方ともに子どもたちに見てもらえたようで、動画を見て作った作品が公民館宛てに送られてきました。

令和 3 年度は三つの事業を開催しました。一つ目は 7 月 29 日(木)、陶芸教室でお皿を作りました。二つ目は 11 月 20 日(土)、自然観察で外に出て境川沿いを歩いて自然に触れました。三つめは 12 月 5 日(土)、季節の工作でリース作りをしました。午前にクリスマスリース、午後はお正月の飾り、子どもたちは元気に取り組んでいました。



子どもまつりについては、令和 2 年度は中止しました。令和 3 年度はみらいの子どもまつりをつくろうという題材でアイデアを募集して、来年以降につなげるというのを実施する予定です。

今年度もお菓子作りの動画配信をします。

できないと諦めるのではなく、いろいろな発想でこれからも子どもたちと一緒に楽しんで活動をしていきたいと思います。

東林地区 ★事業前の計画から、当日、終了後まで心配の日々

昨年もコロナに翻弄されるなか、行事ごとに、参加人数と感染対策・運営方法を話し合いながら、6 月「ふるさとうどん作り・七夕飾り作り」、7 月「子ども社会見学」、10 月「子ども工作教室」、11 月「子ども科学教室」、12 月「クリスマス飾り作り」を開催して、子どもたちと楽しく触れ合う事ができました。

最も注意した事は、参加者の動線を制限して個々のエリアから移動しない様に工夫する事でしたが、スタッフが楽しく動いている間に距離が近くなってヒヤヒヤしたり、慣れないマスクや手指グローブを外してしまっは何度も交換したりと、終了後の反省会では新たな気付きを得る毎回でした。

更に行事が終わった後の数日間は、参加者やスタッフから発熱の連絡が無い事を祈って、結果何事もなかったので安堵しました。

2 月には「七宝焼き」を予定して、毎年好評の行事なので人数を増やす計画もあったのですが、コロナ変異株の感染拡大のため、状況が芳しくなく中止となりました。

次年度も地域の応援を得ながら多くの子どもたちと安心して遊べる様に、試行錯誤を繰り返しながら取り組んでいきます。



6 月・七夕飾りづくり



10 月・子ども工作教室



11 月子ども科学教室

大野南地区 ★snowドーム作り

2021 年 12 月 18 日(土)大野南公民館に 63 名の児童を迎え、クリスマス工作として「snowドーム作り」を実施しました。

コロナ禍での事業にもかかわらず、予想をはるかに上回る応募があり、「さてどうしたものかと」青少年委員会での検討の結果、「応募してくれた児童全員に参加して欲しい」との結論に達し、午前中を 2 コマに分け、前半を 4 年生以上の高学年、後半を 3 年生以下の低学年として、それぞれ 30 名での実施となりました。

30 名の参加者を 5 班に分け、班ごとに指導員がつき、児童一人一人、思い思いの snowドームが完成してきました。更に、雪だるまを接着剤で固定する合間に折紙で小さなクリスマスツリーも作成できました。

青少年指導委員の我々も、久しぶりに子どもたちと接することができ、子どもとの何気ない会話がこんなに楽しかったのだと、認識を新たにしました。

アンケートでも好評で、また工作をしたいという声も多数ありましたので、工夫しながら子どもたちと一緒に楽しめる事業を考えていきたいと思いました。



大野中地区 ★2021 年度の活動

本年度の活動はコロナの影響で、公民館青少年部で 2 回だけの活動となってしまった。

1 回目は 6 月 19 日(土)に初めてリモートで実施した、「クイズ&ゲーム大会」

今回初めての試みであったが、3 密を避けるため、ZOOM で子どもたちとつなぎ、クイズ、ゲームを行った。

リモートで行うゲームでは戸惑う場面もあったが、新しい試みとしては子どもたちも楽しんでいたので、まずまずの結果ではなかったかと思えた。今後もこのような状況の中、ゲームもさらにブラッシュアップして実施していけたらと思う。

2 回目は 11 月 6 日(土)実施の、「謎解き探検ラリー」

やはり密を避けるため屋外での実施となり、近くの古淵鵜野森公園、境川周辺を親子で回ってクイズを解いてゆくというウォークラリーを行った。子どもたちも屋外の事業ということもあり、楽しそうに取り組んでいた。

この事業は屋外で密を避けることもでき、好評であったことから少しずつ趣向を変えて（探検してみたい場所はまだまだたくさんあるので！）今後も実施が期待できる事業となりそうだ。

来年度はコロナも収束して、従来のように事業が実施できるよう願うばかりだ。



オンラインクイズ&ゲーム大会



謎解き探検ラリー

大野台地区 ★コロナ禍の中、5つの事業を実施

昨年はコロナ禍の中、5つの事業を実施しました！

- 1. 空気の力 2021.6.12(土)
- 2. 下刈り体験とクラフト作り 2021.6.26(土)
- 3. 子ども映画会 2021.7.17(土)
- 4. セミの羽化観察 2021.8.1(日)
- 5. クリスマスのついで 2021.12.18(土)



常に感染に注意しながら、マスクを着用しながら子どもたちにも元気で参加してもらい、楽しく実施できました。最後に、今年もコロナに負けないで元気に明るく前に進みたいと思います。



大沼地区 ★『子どもまつり』の未来

昨年に引き続き、毎年秋に開催していた「子どもまつり」は中止にせざるを得ませんでした。そこで今回は、来年度の開催に向けて、またコロナ後の「子どもまつり」のあり方を検討するために、直接子どもたちの意見を吸い上げようとアンケートを実施しました。

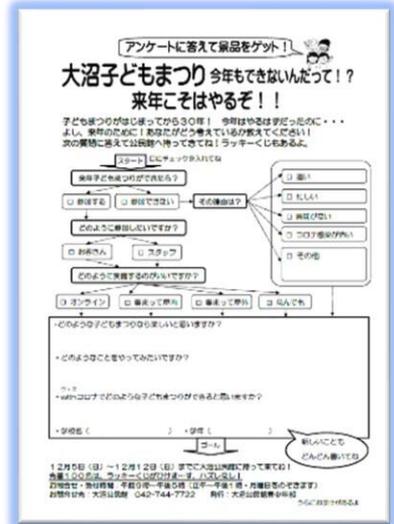
「子どもまつり」の運営にかかわれる学年を対象に、興味をもって回答してもらえるよう工夫し、裏面にはイラストを“点つなぎ”で遊べるおまけを付けました。



回収にあたっては、公民館へ持参してもらってじ引きを行い、ささやかな景品を用意。クリスマスの装飾期間でもあったので、オーナメントの工作キットもお土産にしました。

アンケートの結果では、コロナ禍の生活がしっかりと浸透していることが垣間見え、以後の開催のヒントになるものもありました。

子どもたちの想いを受け取り、来年度こそは実施したい！とメンバー一同、心を一つにしました。



津久井地区 ★少しずつ活動再開へ

コロナの攻撃を受け、最適な答えを見いだせないまま 2 年が経過してしまいました。

この間、地区協議会事業はほぼ取りやめを余儀無くされましたが、苦境のなか実施した事業・活動もあります。

- ・地区協議会（定例会）開催（前年度 7 回、今年度 5 回）
- ・青少年指導委員によるアイテム作りに挑戦（クラフトバンドの小物入れ、かぞく将棋などのゲーム）
- ・他団体との協賛事業の実施（みやがせミヤ館において子どもたちと「森のえんぴつ作り」）

次年度においては、まず当協議会の重要、かつ永続的な事業である、「つくいっ子お泊り隊」の 20 回目を成し遂げ、今後を見据えながら、開いてしまった子どもたちとの距離をどう縮めるかをしっかり模索していきたいと考えています。



「森のえんぴつ作り」
会場の様子



「悪戦苦闘」クラフト
バンド工作に挑戦

子どもたちが作成した
「森のえんぴつ」



クラフトバンド
の小物入れ



城山地区 ★来年度こそ実施を願う ～クリスマスリースは作ります！～

令和 3 年度は感染状況をふまえ、例年 5 月の事業の内容を変え、時期も 10 月に変更しましたが、準備の時期が緊急事態宣言中だったので中止になってしまいました。

次に、11 月下旬に計画していた「クリスマスリース作り」の準備として、川原に茂っているクズのつるをグルグルと輪にして乾燥させてリースの枠を作りました。緊急事態宣言は解除されていたので実施に向けて対応策を考えましたが、小学生はワクチンが未接種だったことを考慮して、残念でしたが中止としました。

来年度こそは事業が実施できることを願いながら、このピンチを良い機会と捉えて新しい内容の事業を計画していると考えています。でも、クリスマスリースは作りますよ！

クズのつるで作ったリースの枠



令和元年度の事業の作品



相模湖地区 ★子どもたちの交流の場を創り続けて

こんにちは！ 相模湖地区です。現在私たちは 8 人で活動しています。

私たちの地区は小学校区が 3 校区、中学校区が 2 校区あります。しかし、相模湖地区の世帯数減少で子どもたちの数も年々少なくなっています。交通手段も限られて、子どもどうしの校区外で交流する事が難しい地区です。

私たちは公民館青少年委員会と互いに協力して、子どもたちの交流の場を創る事を実現しています。

昨年度はコロナ禍で活動できませんでしたが、今年度は夏以降、感染症対策を十分にとりながら、様々な企画立案した行事、①青少年委員会企画のサマースクール（緊急事態宣言発令で全 6 回が全 4 回になりました）、②11 月のさがみこ子ども秋まつり、そして③12 月のおもしろサイエンス実験室等を行ってきました。

公民館へのアクセスも徒歩の他、保護者の協力（送迎）が不可欠ですが、学校だけでは味わえない地域としての交流活動を継続する為に、公民館青少年委員会と連携しながら、今後も新しい企画を考えていきたいと考えています。



さがみこ子ども夏まつり
(市立相模湖公民館)



さがみこ子ども秋まつり
(県立相模湖公園)



おもしろサイエンス実験室
(市立相模湖公民館)

藤野地区 ★いつもなら・・・

この 2 年間はいろいろな事が起こり、ほとんどの事業が中止になりました。

なかなか集まることもできない中、唯一の活動として、夏に行うキャンプの道具の点検整備や、藤野の竹を使った工作の準備を行いました。

引き続き、過去に行ってきた工作の伝達講習等を予定しています。

そんな中、2 年間使えなかったグラウンドがやっときれいになりました。

そして、毎年 4 月 29 日に実施している陣馬山ハイキングの実施に向けた打ち合わせも始まりました。

竹の工作は、のこぎりやヤスリとドリルなどを使って作るブンブンゴマに決まりました。



地区で一番広い名倉グラウンドです
すっきりきれいになりました



いつもと変わらない陣馬山のやまなみです

2021 年度表彰受賞者紹介 >> 受賞された皆様おめでとうございます <<

■相模原市市政功勞表彰（2021 年 11 月 20 日 市制記念日）※会場での表彰式は中止

市民もしくは市に関係のある個人または団体で、市の公共福祉の増進および教育文化の向上に尽力された方、または市の公益に関し、とくに業績が顕著であったと認められた方を対象に表彰します。

>>受賞者<< 吉田勝文さん(上溝)、鈴木敏夫さん(津久井)

■神奈川県青少年育成活動推進者表彰（2022 年 2 月）※会場での表彰式は中止

生業の傍ら、青少年健全育成活動の推進力として、奉仕に努力を傾けている個人に対し神奈川県青少年問題協議会が表彰します。

>>受賞者<< 宮下悦子さん(大野南)、生野明弘さん(上鶴間)、宮地よし子さん(上鶴間)、
峰尾芳幸さん(相模湖)、佐藤亘さん(藤野)



写真は平成 30 年度

Congratulations!

■神奈川県青少年指導員表彰（2022 年 3 月 27 日・青少年指導員大会）

青少年指導員活動において顕かに功績が認められる者に対し、神奈川県青少年指導員連絡協議会が感謝の意を表彰します。

>>受賞者<< 渡邊輝雄さん(藤野)、松島弘行さん(星が丘)、小泉忍さん(橋本)

2023 年度予定

神奈川県青少年指導員大会 in 相模原

令和 5 年度に神奈川県青少年指導員大会が相模原市で行われる予定です。

趣旨は、地域で青少年の健全育成活動に取り組んでいる県内各地の青少年指導員が一堂に会し、日ごろの活動成果の発表や講演等を通じて、相互理解と連携を深め、青少年指導員のより活発な展開を図るために行われます。

前回の相模原大会は、平成 27 年度に相模原市杜のホールはしもとで行われました。

平成 27 年度第 48 回大会の概要

テーマ「育てよう豊かな心・伸ばそう若い力」

オープニング：相模原市少年鼓笛バンド連盟

開会のことば：大会実行委員会委員長 市丸 克己

大会のあいさつ：主催者挨拶・来賓祝辞

青少年指導員表彰式

青少年指導員活動事例発表：「“まるっと”わかる相模原市の青少年指導員」

講演：講師 桂才賀氏（落語家、少年院篤志面接委員）

閉会のことば



ロビーでは相模原市青少年指導員 3 専門部の活動内容や地区活動をブロック（A～F の 6 ブロック）ごとに展示や、各イベントで製作した作品も展示されていました。大会は大盛況のうちに終わりました。



2021年度

一年間の主な事業

本来ならこんなことやってました!(写真は以前のものです)

4月 さくらまつり



6月 テント点検



6月 ミニ運動会



5月 スポーツ・レクリエーション



10月 スポーツフェスティバル



11月 親子ふれあいの広場



11月 子どもの権利の日事業



1月 はたちのつどい
着付け直し

(今年唯一実施できました)



1月 賀詞交換会



1月 ジュニア・リーダー
養成研修会修了式




 ■ はげいとう 第 64 号 編集後記 ・ 今期を振り返って
 

広報部長	齊藤 一城(大野中)	みんなで考えてチャレンジして、Good な誌面に仕上がりました！
■ 広報北グループ		
副部長	近藤 郁恵(横山)	青少指として、広報部員として、チャレンジし続けた 2 年。これからも p(^ ^)q
書記	榎本 好二(星が丘)	今年度も行事も編集作業もコロナに振り回された 1 年でした。来年こそ、良い年に！
会計	神戸 てるみ(田名)	活動を模索し続けた 2 年間でした。来年度は子どもたちと触れ合えますように！
部員	萩谷 美智子(相原)	2 年間、ありがとうございました。
	渡邊 恵(橋本)	来年度は子どもたちの笑顔あふれる記事で誌面がいっぱいになる事を願っています。
	赤坂 悦子(小山)	通常とは違う 2 年間でしたが、次年度は明るい話題をみなさまに届けられますように。
	鈴木 悦子(大沢)	悩みながらの活動でしたが、子ども達の笑顔に励まされています。感謝感謝！
	高橋 智子(大沢)	来年度は明るい話題の多い 1 年になって欲しいと願っています。
	歌川 俊子(清新)	コロナ禍でも諦めずに活動して行きたいです。
	夏目 利江(中央)	コロナ禍の自粛で何もできなかったもので、できることを探したい。
	原田 俊治(大野北)	編集で他の地区の事が分かり、誰よりも先に「はげいとう」を読むことができラッキー。
	久保 知子(上溝)	子どもたちがマスクを外し元気で遊べるように。そんな時がきますように。
	加藤 正道(津久井)	各地区の努力が伺える 1 冊となりました。ご協力をありがとうございました。
	砂金 富保(相模湖)	With コロナ菌、這い上がろうよ 明るい未来に向かってみんな！
	平井 一男(城山)	地区行事は中止でしたが広報編集に参加できたことは良かったです。
	濱野 亨(藤野)	何もできなかった 2 年間でしたが、皆様、ありがとうございました。
■ 広報南グループ		
副部長	安藤 和代(新磯)	子どもたちと大きな声で笑って過ごせる日。早く戻ってこーい☆* * *
書記	中澤 純一(大野中)	広報部まだよく理解できていない一年でした。次年度は通常に戻ればと・・・。
部員	林 富一(光が丘)	新人研修会等が新型コロナの影響で中止となり、複雑な思い中での 2 年間でした。
	高山 宏(陽光台)	コロナ禍で部員個々に対話が余りできなかったが、編集会議は勉強になりました。
	佐藤 文雄(麻溝)	コロナ禍に在って、“はげいとう”が果たすべき役割が大きく求められる事を痛感。
	鶴井 雅美(相模台)	笑顔出て、マスク取れる日、願う日々 (o^ ^o)
	山形 実千代(相武台)	一日も早く各地区の笑顔あふれる活動報告で、はげいとうが一杯になりますように。
	岡本 育久(上鶴間)	制限下の経験も、子どもたちに役立つ機会や地域間の連携に育てていけたら。
	大塚 寿子(大野南)	今後も青少指一体となり、地域と子どもたちを繋ぐ活動をしていきたいです。
	瀧本 行由(東林)	今年度もコロナで活動が制限されました。来年度こそは！
	馬場 伸治(大野台)	この 2 年間、思う様に活動出来ず今後も緊張感を持った状態で進みたいと思います。
	藤巻 亜紀(大沼)	青少指とは・・・を改めて考えさせられた日々でした。

■ 連絡協議会・市の主な事業

- ▶ 出張プレイパーク・・・3月5日(土)⇒開催中止
- ▶ 青少年指導委員決算総会・・・3月28日 総合学習センター
- ▶ 市民桜まつりチビっ子広場 ...開催中止
- ▶ 青少年指導委員委嘱式 ...4月5日 あじさい会館
- ▶ 青少年指導委員総会 ...5月23日 総合学習センター



☆ 第 65 号は 2022 年 9 月発行予定です。

★はげいとうは、相模原市の
ホームページから見る事ができます。
「相模原市 はげいとう」で 🔍 検索

⇒QR コード

